

平成29年 4月14日
秋田河川国道事務所
湯沢河川国道事務所
成瀬ダム工事事務所
玉川ダム管理所

雄物川水系河川整備計画（大臣管理区間）を変更しました

国土交通省東北地方整備局では、平成27年9月の関東・東北豪雨や平成28年8月の台風10号等、最近の河川を取り巻く状況の変化および成瀬ダムの計画諸元の変更等を踏まえ、雄物川水系河川整備計画（大臣管理区間）を変更（平成29年4月13日）しましたのでお知らせいたします。

○これまでの経緯

平成26年11月 雄物川水系河川整備計画（大臣管理区間） 策定

○「雄物川水系河川整備計画」の変更にあたっては、河川（治水・利水・環境等）に関し学識経験等を有する方々を委員とした、「雄物川水系河川整備学識者懇談会」の意見を伺いました。併せて、秋田県知事からの意見も伺っております。

○さらに、はがき、FAX、インターネット等を通じたパブリックコメント等を行い、地域の意見を計画に反映するための取り組みを実施しました。

※「雄物川水系河川整備計画（大臣管理区間）」の本文や秋田県知事からの意見は、秋田河川国道事務所・湯沢河川国道事務所等で閲覧いただけるほか、湯沢河川国道事務所のホームページでもご覧いただけます。

湯沢河川国道事務所アドレス：http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/01_kawa/gakushikikon/index.htm

<発表記者会>

秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社大曲支局・角館支局・湯沢支局

問い合わせ先		
国土交通省	東北地方整備局	湯沢河川国道事務所
	住所	湯沢市関口字上寺沢 64 番 2 号
	TEL	0183-73-3174（代表）
	副所長（河川）	齋藤 茂則（内線204）
	○調査第一課長	木村 博英（内線351）

雄物川水系河川整備計画の変更経緯

◆整備計画変更の背景

「雄物川水系河川整備計画」は、河川法第16条に基づき、平成20年1月に策定された「雄物川水系河川整備基本方針」に沿って、当面実施する河川工事の目的・種類・場所等の具体的事項を示す法定計画として平成26年11月に策定され、これまで、治水・利水・環境における目的が総合的に達成できるよう河川整備を実施してきました。

今回、平成27年9月に発生した関東・東北豪雨により水防災意識社会を再構築する取り組みを行うこと、並びに、成瀬ダムの型式等諸元に変更が生じたことから、本計画の変更を行ったものです。

雄物川水系河川整備計画(変更)の経緯

雄物川水系河川整備基本方針の決定(平成20年1月)

成瀬ダム建設事業の検証に係る検討(平成21年11月～平成25年1月)

雄物川水系河川整備計画の策定(平成26年11月) **整備計画策定**

関東・東北豪雨(平成27年9月洪水)の発生

成瀬ダム型式変更(ロックフィル→CSG)

雄物川水系河川整備計画の変更(平成29年4月) **整備計画変更**

雄物川水系河川整備計画【大臣管理区間】の主な変更内容について

雄物川水系河川整備計画【変更】のポイント

- ① 関東・東北豪雨、水防法改正及び答申等を受けた見直し
「施設の能力を上回る洪水を想定した対策」を追加
「危機管理体制の整備・強化」を見直し
- ② ダム事業のダム諸元変更による見直し
成瀬ダムの型式を台形CSGダムに変更
- ③ その他の事項の見直し
統計データ等の時点更新

① 関東・東北豪雨、水防法改正及び答申等を受けた見直し

● 改正水防法施行

浸水想定区域について、想定し得る最大規模の洪水に係る区域に拡充して公表。(雄物川水系(大臣管理区間)では、平成28年6月10日に新たな浸水想定区域を公表しました。)

● 気候変動に適応した治水対策検討小委員会「水災害分野における気候変動適応策のあり方について」

比較的発生頻度の高い外力に対し、施設により災害の発生を防止
施設の能力を上回る外力に対し、ソフト対策に重点を置いて対応することにより、一人でも多くの命を守り、社会経済の壊滅的な被害を回避

● 社会資本整備審議会答申「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について」

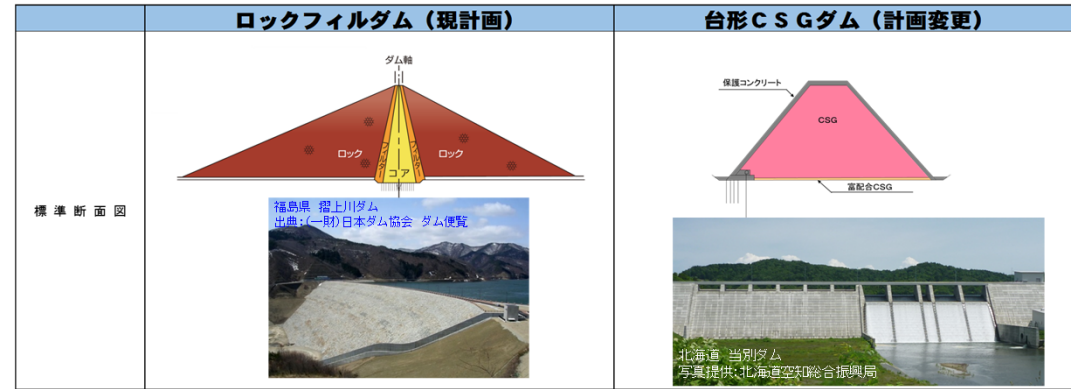
洪水による氾濫が発生することを前提として、社会全体でこれに備える「水防災意識社会」を再構築

流域自治体・県・气象台及び国土交通省で「雄物川大規模氾濫時の減災対策協議会」を設立

② ダム事業のダム諸元変更による見直し

新たな技術である台形CSGダムを採用することにより、合理化施工が図られると共に、自然環境への影響低減が可能となることから、ダム諸元を変更。

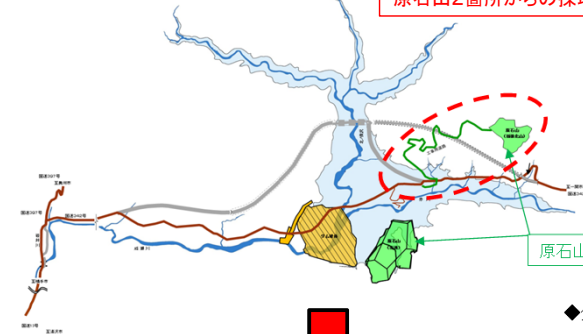
● ダムの型式変更



● ダムの型式変更による環境への影響の低減

◆ダムサイト周辺計画イメージ(ロックフィルダム)

ロックフィルダムでは、大量の固い岩石を必要とするため、原石山2箇所からの採取で必要量を確保する計画。



岩石採取後の原石山のイメージ



◆ダムサイト周辺計画イメージ(台形CSGダム)

当初予定していた原石山及び工事用道路(L=2.7km)の減



台形CSGダムは、周辺から採取できる砂礫を活用でき、ダム堤体の体積も少なくなるため、1箇所からの採取で必要量を確保する計画。